

第5回「度島まちづくり塾」の様子

①ホームルーム



今回のたくしま塾で、当初の目的である「まちづくり意見書」の策定に対する取り組みは最後となりました。

たくしま塾が始まってから、早5ヶ月経ち、季節も変わり肌寒くなっていたため、体を温めてから授業に入りました。「まちづくり意見書」の完成のために、今回は、前回まで取り組んで来た、可能的将来にするために、実際に「〇〇〇事業」として、計画を立てました。

まずは、前回の復習を行いました。その中で今回の計画のヒントとなる、「成り行きの将来」と「手の打ち所」について注目しながら振り返りました。前回たくさん提案された取り組みから絞り込むために、「特に、これは度島のためになる！」という取り組みについて、3票ずつ投票し、更に、「これは是非やりたい！」という奇抜な取り組みも選び、今回の計画づくりの第1歩目としました。

②ワークショップ（振り返り）



③ワークショップ（その2）



今回は、実際に事業計画を作ることによって、投票で絞り込んだ取り組みを模造紙に書き起こしました。その中では、「いつ?」「誰が?」「どのように?」「この事業をしたら、度島はどんな風に変わる(良くなる)だろうか」「この事業行うためには、自分たちにはどんなことが出来るだろうか?」など、来年度の事業化に向けて、一人一人が意見を出し合い、計画の策定を行っていきました。

④ワークショップ（その3）

今回出された事業は、「度島をもっと美しくする事業」、「地産地消・販売事業」、「観光客あられる事業」の3つの事業を柱として計画を立てていきました。その内容は、「地域の人と毎月1回掃除をする日を作る」や「ぼっぼや、100均をやっている人たちと、青空市場をやる。」「田植え（農業）、アゴ網（漁業）体験やクルージングを農家や漁師さんと一緒にやる」など実現に向けて、より具体的な意見が出されました。



⑤まとめ



第5回目となった「たくしま塾」では、「まちづくり意見書」策定のために事業計画立ててもらいました。これまでに行ってきた、まちあるきや、ワークショップで考え出した、お宝や課題を見つめ直し、生徒達が、本気で「将来の度島」を考え、更には「地域の人とどのようにして一緒に取り組むことができるか」という事についても考え、中学生が考える「まちづくり」が「まちづくり意見書」として集大成となります。